

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 3122 号	氏 名	佐々木 淑恵
論文審査担当者	主査 川手 信行 教授		
	副査 鈴木 洋 教授		
	副査 市川 博雄 准教授		
(論文審査の要旨)			
<p>肋骨温存自家組織乳房再建において、内胸動静脈の展開は第二肋間もしくは第三肋間から行う。本論文では、肋骨温存自家組織乳房再建術を受けた患者における第二肋間と第三肋間の比較検討が行われた。患者 255 名、計 310 例の自家組織再建の症例において、肋骨間距離、内胸動静脈の数と位置関係、静脈の分岐、血管露出時間に関する前向きに収集されたデータの分析がされた。肋骨間距離は第二肋間の方が平均して大きい事、内胸静脈の走行は第二肋間で 1 本が 81%、2 本が 19%、分岐があるものは 4.7%である一方で、第三肋間ではそれぞれ 68%、32%、16%であった事、内胸静脈は第二肋間では 93.6%、第三肋間では 88.2%が動脈より内側に位置している事が明らかとなった。また、内胸動静脈の展開時間は第二肋間と第三肋間で同程度であり、術中再吻合率は 9.1%、術後皮弁の再手術率は 4.0%、皮弁全体の成功率は 99.7%であり、血管吻合時に肋骨温存した内胸動静脈の展開は再吻合率の低さ、高い皮弁生着率をみても非常に有効な方法であるとし、肋骨温存自家組織乳房再建においては、より広い操作スペースが確保できて血管解剖が予測しやすく、血管径の安定した静脈が得られる第二肋間の使用が推奨されると結論している。</p> <p>本論文は学術的価値を有し、学位論文に値すると判断された。</p>			
論文題名 : The ideal intercostal space for internal mammary vessel exposure during total rib-sparing microvascular breast reconstruction: A critical evaluation. (Total-rib sparing を用いた自家組織乳房再建における内胸動静脈展開時の理想的な肋間選択とその評価)			
掲載雑誌名 : Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery Vol. 72 No. 6 P. 1000-1006 2019 年 掲載			

(主査が記載、500 字以内)